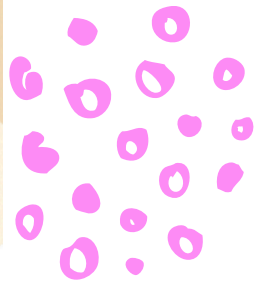


ゆりいか通信

第20号

令和7年12月



心穏やかな年末年始を迎える

12月のカレンダーを目にする
と、クリスマスや年末年始
の予定が自然と思ひ浮かぶ方
も多いでしょう。日頃なかな
か会わない親せきや知人と顔
を合わせる貴重な機会が増え
ます。その場が楽しみという
ご家庭もあれば、少し気が重
く感じられるご家庭もありま
す。とりわけ不登校のお子さ
んやそのご家族にとっては、
この時期ならではの独特の緊
張が生まれやすいように思ひ
ます。

子どもが通常どおり学校に
通っている場合には特に気に
ならないような質問や話題で
も、不登校の状況では思ひが
けずつらさを感じることがあ
ります。不登校初期の段階で
は、子どもも保護者もまだ状
況を前向きに捉えきれず、日
頃抱えている自己否定的な気
持ちを刺激してしまうことも
あります。また、不登校の期
間が長くなり、考え方が整理
されてきたご家庭であっても
親せきや知人との価値観の違
いが際立ち、なかなか理解し
てもらえないことへの戸惑い
やいら立ちにつながることも
あります。

冬の過ごし方はご家庭に
よって本当にさまざまです。
不登校であることをオープン
にしたほうが気が楽だと感じ
る場合もあれば、逆に話した
ことで負担が増す場合もあり
ます。久しぶりに会う人との
やり取りが、子どもの変化の
きっかけになることもあれば
気持ち追いついてしまいう
こともあるでしょう。どの選
択が正解なのかは、実のところ
誰にも分かりません。

大切なのは、子どもの気持
ちに耳を傾け、ご家族自身に
とつても無理のない形を選ぶ
ことではないでしょうか。不
登校について理解してもらう
までには、時間もエネルギー
も必要になることが少なくあ
りません。「失礼に当たらな
いように」と気を遣う場面も
あると思いますが、まず優先
してほしいのは、お子さんと
ご家族が安心して年末年始を
迎えられることです。どうか
ご家庭ごとのペースで、心穏
やかに年を越せる過ごし方を
選んでいただければと思ひま
す。

恩庄 香織

Our Activities

ユースシンポジウム

参加報告



先日ユースシンポジウムに参加し、分科会④のナビゲーターを務めました。全体会では、若者たちが日頃感じている「しんどさ」や「もやもや」を率直に語り、「本当にそうだな」と共感する場面や新たな気づきが多くありました。分科会④では、私たちが活動拠点を置く「こりす西陣」のほか、「とらい・あんぐる」「くろくKitchen」「コミュニティスペース sacca」「洛西のECHO」の皆さんから活動紹介があり、利用する若者の声も交えながら、それぞれの居場所に込められた想いを知ることができました。

多様な「とまり木」と人のつながりの大切さを感じ、また新たなご縁もいただく貴重な機会となりました。

フラッペ

【保護者・支援者向け】

11月のフラッペでは、「保護者・支援者が知っておきたい 若者に多い消費者トラブル」をテーマに勉強会を企画しました。日頃様々なニュースなどで若者を取り巻く消費者トラブルを耳にします。SNS広告をきっかけとした定期購入トラブルや、オンラインゲームの高額課金、もうけ話や闇バイトなど、身近で起こりやすい事例がたくさんあります。

今回は残念ながら事前申し込みが少なく勉強会の開催は中止となりましたが、日幣の中で声をかけていくことの大切さを、今後も伝えていきたいと考えています。

今月は「自分を大切にする」をテーマに、また1月のフラッペでは「選挙」をテーマに取り上げますので、ぜひご参加ください。

ゆりいか勉強会

教職員やこども・若者支援者の方向けの勉強会として「ゆりいか勉強会」を行っています。今回はゆりいか研究会のアドバイザーをで洛和会音羽病院の中島先生をお迎えして、「学習障害」について学びを深めたいと思っています。

町家のくつろげる和室での少人数勉強会は、いつもごっくばらん交流することができ、日頃気になっていたことを尋ねたり思いを共有しやすいと好評です。

また教職員を始めさまざまな支援団体さんがそれぞれの枠を超えて一緒に学ぶことで、新たな視点での交流もでき、いつも有意義な時間となっています。関心のある方はぜひお申し込みください。

参加費
1000円

ゆりいか勉強会
こんな子いませんか
学習の苦手な子どもたち

講演会 12月27日（土）14:00~15:30
洛和会 音羽病院 公認心理師・臨床心理士
中島陽大先生

授業や支援の場で、「読み書きだけが難関に苦手」「計算になると急につまずく」など、努力や意欲とは結びつかない悩みを抱える子ども・若者と出会うことがあります。そこには、学習障害という特性が関係にある場合もあります。今日のゆりいか勉強会では、学習障害に関する基本的な理解と、学校現場や支援の現場で活かせる関わり方の視点について、専門の先生にお話しいただきます。教職員・スクールスタッフ・若者支援に関わる方のご参加をお待ちしています。

交流会 15:30~16:30
【希望者】ごっくばらんにおしゃべり

場所 こりす西陣
(京都市上京区藤木町795-5)

ウェブサイトからお申込みください。

Upcoming Events

12/21

◆ フラッペ勉強会・交流会

12月は、「自分を大切にする」です。どのようにすればよいか一緒に考えましょう。

12/27

★ フラッペ勉強会・交流会

「学習障害」についてお話をさせていただきます。一緒に学びを深めませんか。

1/10

♥ わいわいギャザリング

カリンバをさわってみたり、ボードゲームをしたりして過ごしましょう。

1/18

◆ フラッペ勉強会・交流会

1月は、「選挙」がテーマです。どのように伝えればよいのか考えてみましょう。



ゆりいか研究会

- ★ 教職員・若者支援者対象
- ◆ 保護者・若者支援者対象
- ♥ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。

今月のコラム

今月は洛和会音羽病院の中島先生からご寄稿いただきました。

HSPは発達障害でしょうか？

「HSPに当てはまるので発達障害です」と言われる人を見かけます。例えば、音の過敏さや周りの人の評価を気にするといった困りが、HSPでもあり発達障害でもあると言えるのでしょうか。

HSPとは Hyper Sensitive Parson の略です。1990年代にエリン・N・アロンが提唱した概念です。Hyper Sensitive とあるように、HSP

の人はそうでない人に比べて、音などの外部刺激に対する敏感さだけでなく、心理的な変化に対して敏感です。HSPには4つの気質があると考えられています。頭文字を取って「DOES (ダズ)」と言われます。以下に列挙します。(1) Depth of processing (情報処理に深さがある)、(2) Overstimulation (刺激に対し敏感である)、(3) Empathy and emotional responsiveness (全体的に感情の反応が強く、特に共感力

が高い)、(4) Sensitivity to subtleties (些細なことに気が付き、影響されやすい)。こうした特徴により、周りからの評価に過敏である、様々なことを考えすぎて不安になる、などの特徴が見られます。自己肯定が下がることもあるため、生きづらさを感じることもあるようです。

ただし、HSPは病気ではなく、その人の気質を表す概念です。HSPと発達障害が混同されることもありますが、発達障害は診断名である点で根本的に異なります。例えば、感覚過敏は音や匂いなどの刺激に敏感あるいは鈍感である症状です。注意欠如・多動症に見られる注意の散漫さは周囲の刺激に注意が移る症状です。これらの症状は発達障害の一部であり、治療の対象になります。

一方でHSPは治療として捉えるより、その特徴の理解を深めて自分らしく生きるすべを探る対象として捉える必要がある

といえます。なぜなら、HSPは確かに生活上の困りに繋がる側面もありますが、感受性の高さや思慮深さといった特徴は、その人の長所でもあるからです。したがって、HSPだから発達障害と捉えて治療の対象とするのではなく、自分の特徴として理解し、より良い生き方を考えていくのがよいのではないかと思います。

音羽病院 臨床心理士

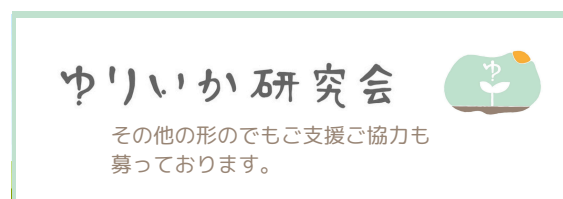
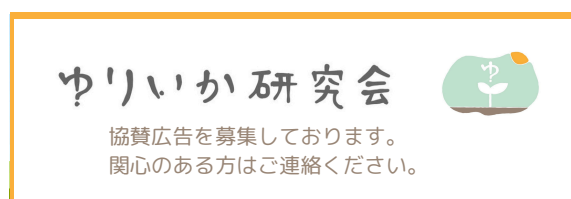
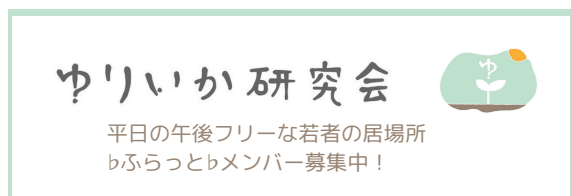
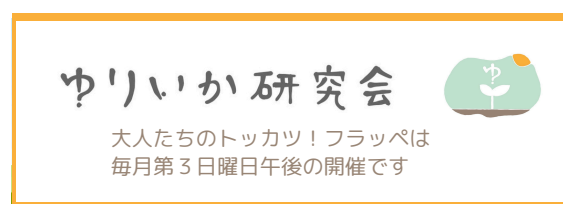
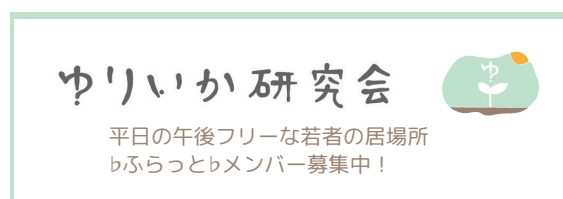
中島 陽大



Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（順不同）



多喜誠子さま、杉本さま、宮坂 修平さま、T.OGAWAさま

クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire community におきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



《連続小説》



金鶏鳥

宮美遊

幼少期（十七）

五月は、田植えの季節だ。田植様が一行になつて、青々とした苗を三、四本ずつ土の中に差し込んでいく。

当時、たくさんの田んぼを持つ家は、賃金を払って田植えを手伝ってもらっていた。その手伝いに来る人達を田植様と呼んだ。田植様達は、着物を腰のあたりで深くおはしよりをして着物の丈を短くし、その下から着物の下に着ている赤いおこしと呼ばれる裾よけを出していた。うつむく仕事なので着物の前が汚れない様に、かすりの前掛けをしている。着物の袖が落ちてこないように肩からたすき掛けをして、頭には菅笠をかぶっていた。腰には小さな籠をぶらさげていて、その中には苗束が三つ程入っている。

弥之助があぜ道から、腰籠の苗がなくなつた田植様に苗束を投げて渡していた。信男は、父に苗籠から束を渡す手伝いをしていた。

一步一步下がりがながら植えられた苗は、整然ときれいな列になつていく。大きくなつたら自分もあんなにきれいに植えられるんだらうか、と感心しながら信男は見ている。

「信男」

弥之助があぜ道から田んぼを見ていた信男を呼んだ。

「急いで家に行つて、苗場から苗を十束取つてきてくれ」

「うん、わかつた」

信男は急いで立ち上がると、お尻の土をぱんぱんと叩き落して家に向かった。

信男は家の前まで走つてくると家の向かいの田んぼに入った。そこが苗場になつていた。そこには十五センチ程に育つた稲の苗が百本一束に括られて、根の部分を水に浸（つ）けて並べられていた。その苗十束を一束ずつぐいと掴み、苗籠に入れた。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切つた実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれから楽しんでご一読ください

絵：落葉画廊

編集後記

今年のカレンダーも、気がつけば残り半月ほどとなりました。月日の経つ速さを実感しつつ、この一年を振り返っています。立ち止まったり迷ったりしながらも、さまざまなことに挑戦してきました。目に見える数字としての成果はまだ十分とは言えませんが、活動を通して出会えた方々や、少しずつ広がっていくご縁に支えられ、確かな手応えも感じていきます。一步一步は小さくても、その積み重ねを大切にしながら、これからも歩み続けていきたいと思っています。（恩庄か）

おしらせ

★2月の朝マルシェに向けて、企画のアイデアを出してくれる高校生と、活動をサポートしてくれる大学生を募集しています。周囲にご関心のある方、ぜひご案内いただけると幸いです。

★令和7年11月号までのゆりいか通信をウェブサイトに掲載しました。関心ありの方にご紹介ください。